

武井 誠 活動報告

武井 誠 を励ます会

〒350-0253 埼玉県坂戸市北大塚 40
TEL 049-289-2527 090-9854-5175
<http://www.takei-makoto.org/>
E-mail takei@sakado-gr.org

10号

- ◆ 9月議会を終えて
- ◆ 放射能から子どもたちを守るために
- ◆ 武井誠、議会活動の成果と課題
- ◆ 無料法律相談・市民生活相談案内
- ◆ 武井誠ホームページ「市民活動日記」

財政状況やや好転 しかし楽観は禁物

東日本大震災・原発事故の影響はこれから



坂戸市9月議会は、2010年度（平成22年度）の決算報告認定を中心に、約1か月にわたって行われました。

決算は、歳入281億4730万円、歳出270億5142万円、差額10億9588万円が今年度に繰り越されています。

2年前に96%だった経常収支比率（必ず使わなければならない経費に財源が使われる割合。高いほど財政に余裕がない）は86.6%に改善しました。15%を超えると財政運営に注意が必要といわれる公債費負担比率は13.1%でした。

財政健全化のための計画実施、また大きな原因として政権交代によって地方交付税が大幅に増額されたことにより、危機的であった2年前の市の財政状況は、やや好転したといえます。

しかしながら課題も顕在化しています。今後、再び公債費増加が見込まれること、団体への補助金などのカット、何よりもリーマンショック後の不況に加え、震災・原発事故の影響があらわれるのはこれからです。富山大学の小倉利丸さんは「私たちには経済成長とエネルギー消費の受益者としての既得権を保持したまま、被害者を救済したり、何百何千何万年も続く核廃棄物処理もするのだといった都合のよい選択肢はあり得ない。大企業の利益と国際競争力のために人々の生存を犠牲にするような社会から決別することが必要である。」と述べています。

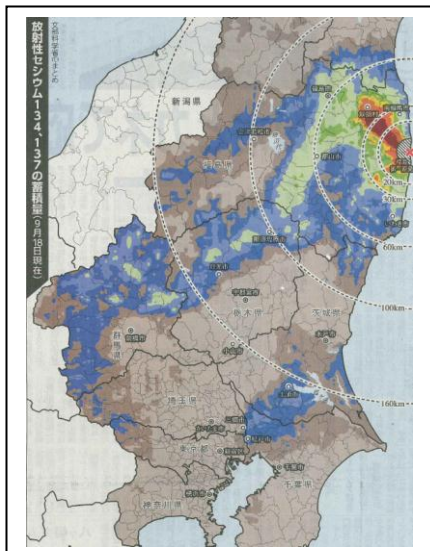
私は一般質問で、今回は放射能の問題を中心に、市の姿勢を問いました。伊和市長はじめ執行部から、いくつか前進的な答弁を引き出すことができました。

「今朝も駅にいた。」

議会報告配布を4年間続けてきました。いつもあたたかい励ましありがとうございます。

ホームページを毎日更新しています。「武井誠」と入力し、**検索**をクリックしてください。ツイッター(makoto_takei)からの発信も始めました。

(子どもたちを放射能から守るために) 市として可能なことはできる限り対応する ～武井一般質問への伊利市長答弁～



左の地図は、文部科学省がまとめた9月18日現在の放射性セシウム蓄積量です。関東地方の広範囲にわたって放射能汚染が広がっていることがわかります。

伊利市長は答弁の中で「原子力発電に依存している現在のエネルギー政策を転換する時期が来ている」と述べ、そのうえで放射線量の測定継続、給食の食材検査実施など具体的取り組みに言及、市民、とりわけ子どもたちの安全のために「市として可能なことはできる限り対応する」と約束しました。誠意ある答弁でありました。

また執行部から「暫定規制値は目安。市独自の基準を設ける考えはないが、基準値以下でも低ければ低いほどより人体への影響が減る。数値は低ければ低い方がより安心」という認識で臨む」という答弁がありました。

線量測定を積極的実施、私立幼稚園へ貸出

保護者のみなさんからお手紙やメール、ツイッター等でいただいた要望をもとに質問をし、いくつかの前進的答弁を引き出すことができました。主なものは、下記のとおりです。

・市の線量計で人の集まるところを中心に測定希望があれば柔軟に対応 ・ α 線、 β 線等の内部被曝についても大変重要と認識 ・窓口一本化、専門部署の設置について検討 ・定期的に校地内の放射線量を測定 ・結果をホームページに公開 ・給食食材の産地を記録、食材の検査実施 ・放射線に関する教育を理科担当教員中心に取り組む ・校外学習、修学旅行について事前に安全確認 ・弁当持参を希望する保護者には学校給食の意義を説明するがやむを得ない場合は許可 ・私立幼稚園に簡易線量計の貸し出しを行う。

3月11日の東日本大震災に伴う大地震と大津波により福島第一原子力発電所が壊滅的な被害を受け、大量の放射性物質が原子炉施設の外部に放出されるという重大な事故が発生しました。今なお続いている放射線の脅威は、被災者をはじめ多くの人々を不安に陥れ、情報隠しや情報操作も相まって、原子力発電に対する国民の信頼を根底から崩してしまいました。この事故を受けて原子力発電の安全対策に対する再検討も迫られ、日本のみならず世界各地で脱原発の動きが起こっています。

政府の最大の使命は、国民の生命・財産と生活を守ることであり、現状に対する見直しを進めていくことが必要です。

正確な情報に基づく電力量の需給バランスを念頭に置きながら、誰もが安心して暮らせるよう、省エネルギー社会を実現させるとともに、再生可能エネルギーの普及拡大等による電力確保対策推進により、原子力発電に頼らない社会に向けての、エネルギー政策転換を強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

武井誠の提出議案
エネルギー政策転換を
求める意見書 全会一致可決

「社民・民主の会」の栗原議員とともに提出した「エネルギー政策転換を求める意見書提出に関する件」が全会一致で可決しました。

武井 誠 議員活動 ～その成果と課題～

出席するすべての議会で一般質問を行ってきました。同僚議員の協力もあり、まだまだ不十分ではありますが、命を大切に市政への、いくつかの足がかりを作ることができました。取り組む中で明らかになった今後の課題を含め、その一部を報告します。

●大事なものは残す、いらぬものは作らない

09年3月議会の直前、坂戸市石井に競艇の場外券売場、ボートピアを建設する計画ありとの情報を得、全力でこれに反対、事実上、ボートピア建設は受け入れないと確約する答弁を引き出しました。

10年6月議会では、閉会したコミュニティセンターの今後について質問し、翌年4月に再開することになりました。

●火葬場の問題について

長い間、前進を見なかった火葬場の問題について11年6月議会で質問、静苑組合加入を目指して事務レベルでの折衝を開始するという答弁をえました。

しかし、9月議会での同僚議員の質問への答弁では進捗は見られないとのこと。取り組みの弱さを感じました。

坂戸市のインフラ整備、この課題が最優先事項の一つであると考え、さらに「提案型」の質問に取り組みます。

●生活道路、水路、通学路を

福祉センター、坂戸駅南北自由通路、スマートIC、入西地域交流センターなど、大きな事業が完成、または進行中です。市や市民活動の発展につながることを期待するものですが、一方、生活道路の拡幅、通学

路の安全、用水路の管理などの整備が遅れているという声が上がっています。写真は県道善能寺付近、大雨が降ると必ず冠水する状況が改善されていません。



数回にわたって質問し、09年6月議会では通学路危険箇所への交通指導員配置などの成果をえましたが、全体としては課題が山積したままです。これからは、生活に直結するインフラ整備に市政の重点を移すべきであると考えます。

●お金は教育・福祉・医療に

財政の問題についても、数回質問してきました。限られた予算であるからこそ優先順位をしっかりとつけること、教育、福祉、医療などを切り捨てないことを主張してきました。厳しいチェックとさらなる取り組みが必要。次号では、このことについて報告します。

無料法律相談案内

どんなことでも

お気軽にご相談ください。
お礼不要・プライバシーは
厳守いたします。

法律相談

田中重仁 弁護士（川越）

秋山 誠 弁護士（上福岡）

林真由美 弁護士（坂戸）

市民相談

武井 誠 坂戸市議会議員
岡野 勉 毛呂山町議会議員

原則として一人30分の予約制。緊急の場合にはいすれかの弁護士さんあてに紹介状を書きますので、それぞれの弁護士事務所でも無料法律相談を受けることができます。

開催日

10月22日（土） 15時

11月26日（土） 15時

12月17日（土） 15時

1月28日（土） 15時

2月25日（土） 15時

場所 坂戸市文化施設オルモ
（北坂戸駅東口前）

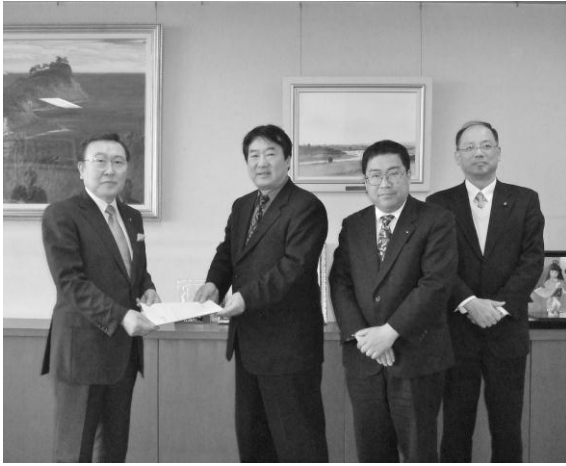
問い合わせは武井携帯

090-9854-5175

武井誠活動日記～市民のみなさまとともに



よびかけ、つどい、つながり、ささえあい・・・市民のみなさまとともに様々な活動をしてきました。真剣に議論し、明るく実行。これからも全力で頑張ります。「小さな声が街を変える」「命を大切にするまちづくり」
武井誠ホームページに掲載した写真の一部を転載しました。



↑働く仲間とともに市長に要望書提出
↓地域の子どもたちとラジオ体操の会



↑平和紙芝居の松岡武司さんと
↓内部被ばくを考える学習会



←若者たちと「平和の火」リレー
→クリスマス会で子どもたちと

